

関東地整

CONPAS導入拡大

システム改修

国土交通省関東地方整備局は、4月から横浜港南本牧コンテナターミナル(CT)で本格運用を開始した新・港湾情報システム「CONPAS」についてシステム改修を進める。「Cyber Port (サイバーポート)」との連携強化を柱に、利用者の声やニーズなどを基に、既存機能により汎用性を持たせる。これにより横浜港の主要CTへの導入拡大を図り、本牧BCターミナルやD1ターミナルなどへの展開も視野に入

れる。「CONPAS」は、情報通信技術の活用によ

り、コンテナターミナルゲート前の混雑解消や、コンテナトレーラーのターミナル滞在時間の短縮を図るシステム。3月30日から、南本牧CTで「搬出入予約機能」と「PSカード活用機能」の常時運用を開始。1日からは、サイバーポートの第1次運用に合わせ、「搬入情報事前照合機能」の常時運用を開始した。本稼働に向けてはこれまで、計8回の試験運用を横浜港で実施。同港の主要CTとして、今後の展開候補として検討する本牧BCターミナルは、第7―8回の試験運用に参加している。

システム改修では、特定の時間帯に集中して到着するコンテナ搬出入トレーラーを平準化する「搬出入予約」について、事前予約をすることで荷繰りの効率化にもつなげるなど各種機能を増強する予定だという。関東地整は、「南本牧での運用で得たノウハウを基に既存の主要ターミナルへの導入拡大を図りたい」としている。